

平成31年度 長期留学報告

所属・職名 政経学部 教授
氏名 田野 武夫

留学先 ドイツ連邦共和国 Freie Universität Berlin

目的 日独外交史研究

期間 平成31年3月30日～令和2年4月3日

※2年以内に本学機関誌、もしくは学会誌等に研究成果を発表する。

平成31年度長期留学報告

- 政経学部 田野武夫

ドイツ連邦共和国

- 首都：ベルリン
- 人口：8300万人
- 言語：ドイツ語（母語者数EU最多）
- EU最大の経済大国
- EU最多の人口
- 多数の日系企業が進出
- 新型コロナウイルスでは他のEU諸国と比較し、致死率が突出して低い医療大国。日本の医療、法律、軍事の近代化の過程において、ドイツは手本となった。

留学都市 ベルリン

- 人口：約370万人
- ドイツの首都であり、ベルリン州として独立している。
- ドイツ連邦議会の所在地であり、政治の中心地
- ベルリン・フンボルト大学やベルリン自由大学、ベルリン工科大学等世界的な大学を有する大学都市
- 明治期に森鷗外、桂太郎、北里柴三郎等多数の日本人が留学。日本の近代化に大きく貢献した。

大学：ベルリン自由大学

- 名称：Freie Universität Berlin
- 設立：1948年
- 学生数：33000
- 留学生比率：21%
- 教員数：約4000名



所属学科

- 歴史文化学部 東アジア研究 日本学科
- Fachbereich Geschichts- und Kulturwissenschaften
- Ostasiatisches Seminar Japanologie
- ドイツで最も歴史のある日本学科の一つ
- 教員数 22名
- 職員 2名
- スタッフ 12名



担当教員

- Prof. Dr. Irmela Hijiya-Kirschnerreit
- イルメラ・ヒジヤ・キルシュネライト教授
- 世界的日本文学研究者。ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞、ドイツ連邦功労十字賞受賞、日本国旭日中綬章等を受賞。三島由紀夫研究の権威。



担当教員

- Prof. Dr. Urs Matthias Zachmann
- ウルス・マティアス・ツァッハマン教授
- 日本近代史研究。明治期から昭和初期までの日本近代史関係の著書、論文多数。2016年より日本学科の教授を務める。



交流教員

- Prof. Dr. Elena Giannoulis 日本学科教授
- M.A. Niels H. Bader 日本学科研究員
- M.A. Tarik Merida 日本学科研究員
- Dr. Maik Hendrik Sprotte 日本学科研究協力員

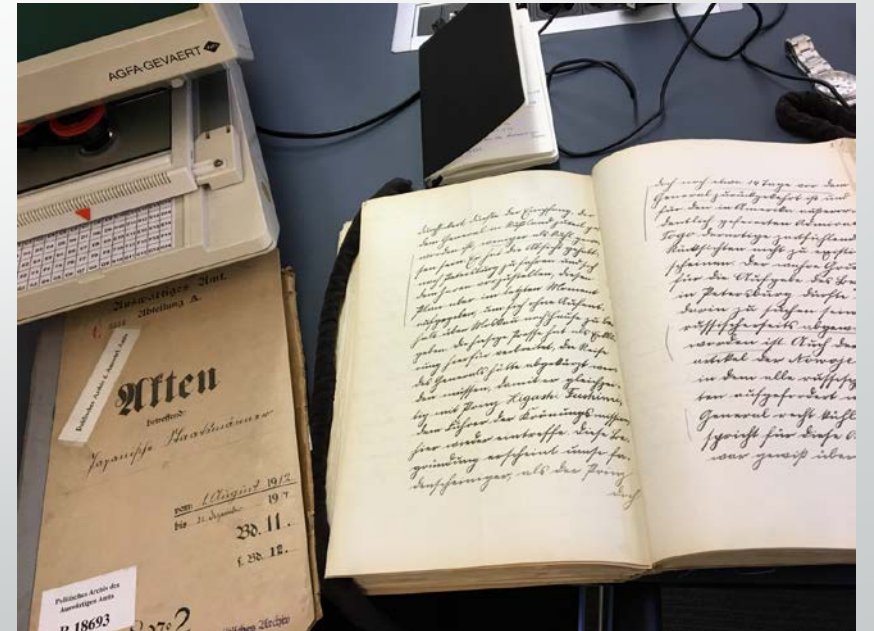
留学中の研究成果

- Vortrag : Taro Katsura und Deutschland (桂太郎とドイツ)

29.01.2020 Ostasiatisches Seminar Japanologie Hittorfstr. 18 (Neubau)
Raum 1.36

研究活動について

- フライブルクおよびベルリンのドイツ連邦公文書館、プロイセン文化財団枢密文書館、ドイツ連邦外務省資料館等での資料収集に多くの時間を割いた。
- 桂太郎、後藤新平等の関連資料を収集することができた。



研究活動について

- 大学では集めた資料の分析を行い、その内容を定期的につアツハマン教授に報告し、アドバイスを受けた。
- 研究内容を研究所スタッフに報告し、多くのアドバイスや示唆を受けた。
- 新型コロナウイルスの影響で、特に最後の1か月は研究活動にかなりの制限を受けた。



総括

- キルシュナライト教授、ツアッハマン教授をはじめ、研究所のスタッフは留学に関してとても親切に対応して頂いた。
- 留学年度は、ベルリン・東京友好都市提携25周年で日本学科で様々な催しが開催され、ドイツにおける日本研究の様々な側面を見ることができた。
- ドイツの学生は、長期の休み中も図書館等で熱心に勉強している。夏休みではなく「講義のない期間」と称しているのが印象的であった。
- 研究所の運営は、簡潔な会議とスタッフの専門性によって効率よくなされている印象を受けた。会議や学務に多くの時間を割かれる日本の教員とは対照的であった。